

「100年史」こぼれ話～桜新町に住んだ人々 その2 (前39号から続く)

山岡 靖さん(当会アドバイザー、「東京の軽井沢-桜新町」著者、『100年史』共同執筆者)

その1では、新町住宅地分譲当初の大正2(1913)年に一代目のUKさんが土地を購入し、別宅として2間(6畳と8畳)、建坪18坪の寄棟平屋建ての和風小住宅を建てられたことまでを紹介しました。

二代目 UYさん(明治29年生まれ)は、UKさんの息子で、父の不動産業を継ぐかたわら内務省の役人をしていました。昭和2年の結婚を期に世帯として独立して新町住宅地に引っ越し、翌年に長男(U.Tさん)が生まれました。

昭和2年に新居として住宅の改築一台式を土間から床張りにし、トイレと風呂場を別棟から内部化し、都市ガスを引き込み、コンロと暖房ストーブに利用するなどにより、当時の最先端の設備を備えた住宅になりました。昭和14年には謡いの会の催しと家族の人数増のため、西側に離れ(6畳と納戸)を増築しました。当時、U邸にはUYさん夫婦、子ども3人、叔母夫婦、それとお手伝いさんの最大8人が暮らしていたのです。謡いの会は数回開催しただけで、すぐに子ども部屋に変わりました。叔母夫婦はその後、同じ新町住宅地内の借家に移り住みました。裏庭と残った東側敷地は畑地にしていました。

三代目 昭和20年代から40年代にかけて、生活の変化に応じていくつかの改築をしています。トイレの水洗化、内玄関を設置(S20年代)、食堂の出窓の改修、車庫の新築(S30年代)、玄関の増築と応接間設置(S40年)です。昭和35年からは、他の2人の子どもは独立して出ていき、UYさん夫婦と長男のTさんの3人暮らしになりました。UYさんご夫婦は、生涯をこの家で全うされました。

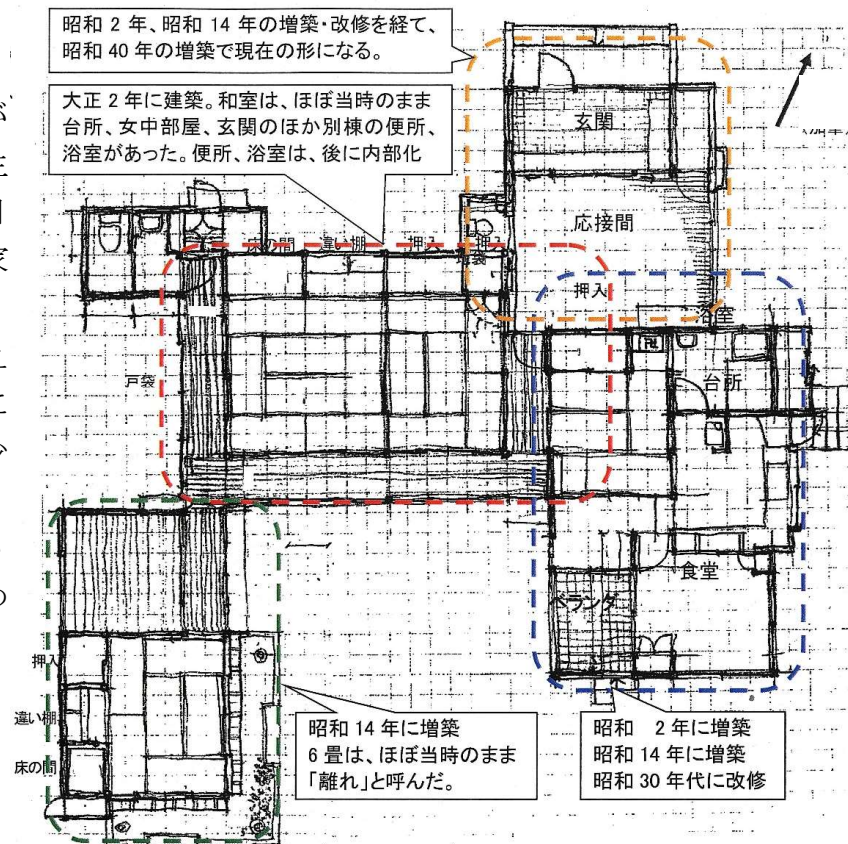
昭和3年生まれのTさんは、この家で育ち、成人後も家業の不動産管理業を引き継ぎながら、独身で80歳頃まで、趣味のヴァイオリン演奏や植木の手入れをしてこの家で楽しんで暮らしました。

100年間のまちと家族 夜は狸がでくような辺鄙な住宅地に関東大震災後、徐々に東京市内から郊外に移り住む人が増えたように、新町住宅地での家族の生活は昭和初期から始まりました。一代目は別宅で利用し、二代目から定住して家族の暮らしがスタートします。

子どもが生まれ、成長して家族が増えていきました。そして三代目、四代目に移るにしたいが、住み続けていく方は少なくなっていきました。

100年間のまちの歴史は、人の三代から四代分の歴史を紡いでいることを改めて感じさせられます。

(※残念ながらU邸は現存していません。)



発行元: 深沢・桜新町さくらフォーラム <http://sakura-forumjimdo.com/> fb
〒158-0081 世田谷区深沢 8-19-6 フェリックス気付 電話: 03(3702)3274 FAX: 03(3702)3219

©深沢・桜新町さくらフォーラム、2020

世田谷区地域の絆ネットワーク支援事業補助金を受けて作成しました。



深沢・桜新町さくらフォーラムは、地域の風景づくりの活動に取り組む市民団体です。 <http://sakura-forumjimdo.com/>、fb
2面: 地域の生き物、呑川親水公園桜植え替え 3面: やくみつるさん寄稿文 4面: 「桜新町に住んだ人々」その2

「コロナと共に」の年が暮れ、新しい年が来ます

どんな1年を過ごされたでしょうか…

●地元在住のやくみつるさん(森羅万象漫画家)が巣籠もり生活の間の生物観察での初記録を知らせてくださいました。そして以下のメッセージも。(→3面をご覧ください。)

「桜新町のお子たち。外国産の大型甲虫類を飼うのも良いのですが、まずは自分の住むまちの種類の目を向けてみなくてはね。テレビゲームの500倍楽しいこと、保証しますよ。」

●私たちフォーラム会員も桜並木の樹1本1本を観察しました。

クビアカツヤカミキリという外来害虫がいないかを調べたのです。

クビアカツヤカミキリの痕跡は見当たりませんでした。ていねいに見る

ことで別の発見がありました。老木の洞に出入りする蟻(①)、桜の葉にひっかかった蟬の死骸(②)、カメムシの幼虫*でしょうかー珍しい虫(③)などに気づきました。今回で3回目の開花前の桜並木観察会(下記)では、新鮮な目で観察できそうです。

*やくみつるさんから: キマダラカメムシの幼虫です。元々南方系の種ですが、数年前より都内でよく見られるように。我が家では昨年初記録。今年もベランダに飛来しました。

●4面には『100年史こぼれ話～桜新町に住んだ人々』

その2を掲載、今号全体で、深沢・桜新町のこの1年と100年とその間の変化に思いを寄せているいろな話題を取り上げました。



●さくらフォーラムから

桜並木の観察会開催 3月7日(日)10時 少雨決行 桜新町区民集会所前集合

案内: 川瀬裕一郎さん(樹木医。当地の桜並木を長らく見てこられました。)

参加費: 100円(保険料ほか)

解散: 12時頃予定。246号付近想定

申込み: 定員20人程度(電話、FAX又は、ホームページ、フェイスブックから、2月28日までにお申込みください。)

- ・開催が難しい状況になった場合は、中止をホームページ等に掲載し、申し込まれた方にご連絡します。
- ・マスクの着用・持参をお願いいたします。
- ・密着を避けるため、行動を制約する必要があるかもしれません。ご協力ください。

「深沢・桜新町100年史」(定価500円)を販売しています。(A5版、全カラー、表紙共72ページ)

新町住宅地の分譲開始(1913年)前夜からの深沢・桜新町の100年をまとめた小冊子です。
会員募集中: この地域の景観・環境・みどりなどに関心のおありの方は、ぜひ、ご参加ください。

深沢・桜新町の生き物たち－この頃感ずること

- ・スズメが減ったね。一昔ながらの木造住宅が減って軒下に巣がつかれなくなったらしい。
- ・ムクドリやヒヨドリは、こんなに多かった？
- ・ことし、ツクツクハウシを聞いた？ヒグラシは、何年も前から聞かなくなったけど。
－（無原罪特別保護区の近くの住人から）両方共、まだ鳴いてるよ。
- ・ニイニイゼミは聞かなかったなあ。
- ・チョウチョの種類は増えたような気がするけど、トンボの種類は減ったと思う。

みなさんはいかがでしょう？ お気づきのことをお知らせください。

●呑川親水公園－桜の植え替えのご報告

玉川公園管理事務所

この地域の素敵な空間である桜並木の管理を担当しております玉川公園管理事務所よりご報告します。この度呑川親水公園の桜のうち、樹木診断により早急な植え替えが必要と診断された樹木(16本予定)を植え替えることとなりました。

このエリアの桜は、老齢化や育成環境の影響、キノコ（腐朽菌）などの外因などにより、樹勢が弱くなる樹木が見られます。枝枯れ、倒木などが起こらないよう平素から注意し、安全策、保全策を施していますが、樹木診断により存続が難しい樹木は、植え替えを実施しています。今後も、樹木の育成状況を把握しつつ、樹木の生涯サイクルを見越した適宜適切な維持管理を進めていきますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。



以前植え替えた樹木は、しっかりとした高木になりつつあります(写真右側の桜)

植え替え対象となった樹木の一本

植え替える樹木の幹に、診断書等の写しを掲示しています。

●呑川親水公園に、少しでも(又は少しは)関わりたい、親水公園を大切にしたいー

そんな方はいらっしゃいませんか？

どうぞお知らせください。

呑川親水公園は、近隣にお住まいの方々の推薦によって2002年に世田谷区風景づくり条例にもとづく地域風景資産に選定されました。その後、推薦者の方々が高齢化その他のご事情で活動が続けられなくなり、深沢・桜新町さくらフォーラムに活動の引き継ぎを依頼されました。

深沢・桜新町さくらフォーラムは、「旧・新町住宅地の桜並木」を地域風景資産に推薦し、2008年に選定された際に発足した団体です。ご依頼に対してそれだけの力はないと考えましたが、お引き受けして現在に至っています。親水公園近くに会員がいないこともあり、親水公園の様子を気をつけて見ることがなかなかできません。

親水公園や地域についての情報を提供くださるだけでも結構です。どなたでもぜひご連絡ください。

●前39号2面 図4 下水の合流地域と分流地域の説明補足 (赤字部分を補足します。)

合流地域：生活排水も雨水も下水道（合流管）へ

分流地域：生活排水は下水道（污水管）へ、

雨水は下水道（雨水管）（完全分流方式）又は側溝から川へ（完全分流方式は、約3割とのこと。)

令和2年 桜新町生物観察ざっくいまとめ

やくみつるさん(森羅万象漫画家)



まあ、とんだ1年となってしまった令和2年。新型コロナウイルスのおかげで人生最長の巣籠もり生活を余儀なくされておりました。東京アラート(←何だったんだ?)が解除されようが、Go To キャンペーン対象に東京が加わろうが、それこそ“風と太陽”の旅人が逆にコートの襟を立てて身を竦めたように、頑なに防禦を固める。なんせ年齢(トシ)も年齢ですし、基礎疾患とやらも持っているの、籠もらざるを得ません。

で、その間、何をやっていたかといえば、もっぱら自宅及びその周辺の生物観察。そんなこと言っ、桜新町にたいしたものがないじゃないと思う御仁は、気を配って見回していないだけ。その気になって探してみれば、ココは長野か山梨か。

中でも驚きましたのは、自宅カースペースの落ち葉の上で見つけたオカチョウジガイ。小筆の穂先ほどの殻の高さわずか6mmほどで、チョココロネをうんと小さくしたような形をしています。平たくいえば、カタツムリの親戚みたいな極小陸生貝類です。60年以上住んでいて初めて見ましたが、我ながら、よくまあ、こんな小さいものを見つけたもんです。夏の間、東の間のペットとして野菜クズを餌に飼っておりました。(秋口に死亡)

虫でも見るべき発見があり、これまた地元初記録チャイロヒメコブハナカミキリ採集。山地に産する小さなカミキリムシがなぜ、大都会世田谷に!!

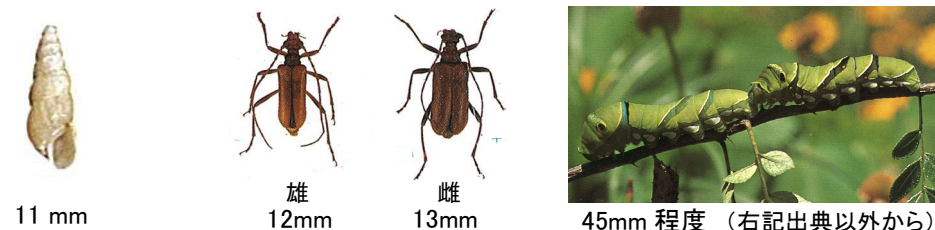
またコムスジという黒地に白い模様を持つチョウが、自宅庭に飛来。数年前、弦巻の実相院境内で見つけ驚きましたが、この界限でも発生を続けてるんでしょうね。スイースイーと羽ばたかずに翔ぶのがこの仲間の特徴で、クソ暑い中でもこの飛翔を見ると、いくらか涼しく感じるものです。

また、季節も下って秋本番の頃、近所の数株のヒガンバナにごく小型のアゲハチョウが。アゲハの幼虫の餌となるミカンやサンショウ類は桜新町の多くのお宅の庭にも植えられているので、従前より多く見かけるチョウですが、ここまで小さいのは珍しい。おそらく幼虫時代に餌を充分に摂ることができず、そのまま蛹化(サナギとなること)、羽化したんでしょう。飛翔も弱々しく、あの後、繁殖行動を取れたかどうか……。

街中のミカンの葉にアゲハの幼虫を見つけたら、その家の方に声をかけて、分けていただくのも面白いと思いますよ、桜新町のお子たち。外国産の大型甲虫類を飼うのも良いのですが、まずは自分の住むまちの種類に目を向けてみなくてはね。テレビゲームの500倍楽しいこと、保証しますよ。



- ①オカチョウジガイ ②チャイロヒメコブハナカミキリ ③アゲハチョウの終齢幼虫(2匹)



出典(いずれも出版は保育社)
①プレート 43『標準原色図鑑全集 3 貝』、昭和 42、渡辺忠重、小菅貞男 ②プレート 5『原色日本昆虫生態図鑑 1 カミキリ編』、昭和 44、小島圭二、林匡夫 ③プレート 14『原色日本蝶類生態図鑑 1』、昭和 57、福田晴夫ほか

写真(転載)及び説明文の文責:当フォーラム ①、②の数字は、図鑑写真からの読み取りによる。②は胴体寸法。

写真の転載について発行元の保育社に問い合わせたところ、現在の親会社である株式会社メディカ出版から「著作権(者)の所在が不明であり許諾する立場にない」との返答を得ましたので、当フォーラムの判断で掲載しました。